

## 会 議 録

|                    |     |  |    |      |      |    |
|--------------------|-----|--|----|------|------|----|
| 会議名<br>(審議会等名)     |     | 相模原市市民協働推進審議会<br>第7回市民協働推進基本計画策定作業部会   |    |      |      |    |
| 事務局<br>(担当課)       |     | 市民協働推進課 電話042-769-9225(直通)   |    |      |      |    |
| 開催日時               |     | 令和元年5月17日(金) 午後7時~9時40分  |    |      |      |    |
| 開催場所               |     | ユニコムプラザさがみはらセミナールーム1・2   |    |      |      |    |
| 出席者                | 委員  | 5人(別紙のとおり)   |    |      |      |    |
|                    | その他 | 0人   |    |      |      |    |
|                    | 事務局 | 5人(市民協働推進課長、他4人)   |    |      |      |    |
| 公開の可否              |     | 可  | 不可 | 一部不可 | 傍聴者数 | 0人 |
| 公開不可・一部不可の場合は、その理由 |     |  |    |      |      |    |
| 会議次第               |     | 1 開 会<br>2 議 題<br>(1) 協働啓発シンポジウム「皆で担うさがみはらの未来」<br>(2) これまでの検討状況の整理<br>3 その他<br>4 閉 会 |    |      |      |    |

## 1 開 会

傍聴者の確認を行い、第7回部会が開催された。主な内容は次のとおり。

( 〇 は委員の発言、 △ は事務局の発言 )

## 2 議 題

## ( 1 ) 協働啓発シンポジウム「皆で担うさがみはらの未来」

シンポジウムの主な内容は次のとおり。

## 【基調講演「協働の輪をさらに広げるために」】

- ・ 協働の一事例に境港市の「水木しげるロード」がある。成功の一番のポイントは、「行政」「事業者」「地元住民」が境港市のポテンシャルを再発見し、地域活性化の実現という目的を共有し、頑張っ取組めたことだと考えている。
- ・ 協働の「協」は、右に3つの力がある。これは「行政の力」「市民の力」「事業者の力」と捉えることができる。地域を主に構成する3つの力が「+」のように足されて働くことの意味が、「協働」に含まれている。また、「働」は、「人」が「動く」のを見て、「傍(はた)」の人が「楽(らく)」に感じるという意味もある。
- ・ 協働という行動を通じて、3つの主体の力が加わり、動いている状況を見ていた傍(周り)の人たちも楽しくなって、「その行動に自分も参加しよう」と促す活動が協働と考えられる。すぐにできることではないが、目的の共有化が一番のポイントだと思っている。
- ・ 協働といった実際の行動を起こすためには、個人等の意識が変わる必要がある。その意識を変えるためには、シビックプライドが求められる。シビックプライドとは、「都市に対する誇り」や「当事者意識に基づく自負心」を示し、これが強いと自分自身が関わって地域を良くしようとする活動に結びつく。
- ・ 協働の輪をさらに広げるためには、行政としては、シビックプライドの醸成に強く取り組む必要がある。シビックプライドは、市民主体、行政主体のイベントを増やすことで高まる傾向がある。その中では、イベントの結果より、過程という経験を積み重ねることが大切である。市民が簡単にできることは、八王子市の「口コミ隊」のように、相模原の良いところを口コミで伝えていくことである。ぜひ、意識的に取り組んでもらいたい。

## 【パネルディスカッション「協働の実践者に聞く 多様な主体が活躍するさがみはら」】

- ・ 自分一人では出来ないことも、たくさんの方がいる自治会では出来ることがある。また、自分が分からないことを教わるなど、地域にはすごい人が沢山いることをしみじみと感じた。
- ・ 知り合いが増えると楽しいし、イベントに参加する人も増え、どんどん良いサ

イクルになってくる。何かをすると多くの人が集まり、活動に対してお礼を言われることで達成感を感じている人も多いと考えている。

- ・ 今後、地域住民が地域・自治会に何を求めているのか模索しながら進めていかなければならないと思っている。自分たちの活動がこれで良いのか振り返る時間が必要だと考えている。
- ・ リーダーは寛容でなければならないと思っている。
- ・ 「こんなことがあったら良い」をどう実現するかをみんなで考えれば、参加者も減らないのではないかと考えている。必ず何かをやらなければいけないということはなく、一生懸命やっていけば、まわりの人も一生懸命やってくれる。
- ・ 愛着を持つためには、人と情報を共有しながら地域のことを良くしていこうと取り組んでいくことが大切だと思う。
- ・ 遊びを出前する取組をしている。地球中を遊びの場にし、多世代の交流の場をつくる活動を続けている。
- ・ 一番大切にしていることは、この人は「何を大切にしているのか」を理解することと、「思い」を共有することだと考えている。地域の人とは、頻繁に飲み語らいをしており、それが、仮に違うことがやりたい人でも、目指す部分を共有する力になっていると感じている。
- ・ 若い世代もボランティアにきているが、単なる奉仕活動ではなく、初めての体験や様々な人との出会いの場にもなっている。まちには50～70歳代の方で様々な経験をしている人がいる。そういう方に遊び場に来てもらって、子どもたちに教えてもらうなど、多世代をつなぐ役割をしている。多世代が集う場をつくるのが、担い手の育成につながっていると感じている。
- ・ 子ども時代に楽しかったことが、今住んでいるまちでその価値が引き継がれているかが大事なことだと思う。子ども時代・若者時代にまちの人や文化、知恵など、多様なつながりがあることが必ず相模原のシビックプライドをあげていくと思う。
- ・ 感じたこと、思ったことをまず行動してみることが大切だと思う。
- ・ 学生だけではなく、働く世代、子育て中の人と一緒に南区のイベントの企画・運営をしている。
- ・ はじめは母親の勧めだったが、育ててくれた南区に恩返しをしたいと活動をしている。様々な年代の方とディスカッション出来るようになるなど大学やアルバイトでは経験できないことが体験できている。特に、自分たちの企画したイベントが形になり評価してもらえることに、とてもやりがいを感じている。
- ・ 若者参加プロジェクト実行委員会の強みは、働いている人もメンバーにいたため、学生だけでは気が付かない視点を学べることである。
- ・ 活動の中で困難な点は、実行委員会のメンバーやイベントの参加者も含め、働

いている人、子育て中の人を探すのが大変なことである。

- ・ 人は、見えないもの、分からないものは怖いと感じる。まちづくりもイメージが出来ないと不安につながり、初めの一步が踏み出しにくくなるのではないかな。
- ・ まちづくりや地域参加による達成感、やりがい、経験値は身につくものであって、見えるものではない。得られるものが見えづらいと、参加している側の人も他の人に勧めにくいため、活動をしている団体のメンバーが、どんな活動をしているのかを積極的に示していくことで、より魅力が伝わりやすくなるのではないかな。見える活動、具体的な活動が必要だと思う。
- ・ 最初の一步が踏み出せない人が多いと思うので、友人の友人の友人くらいまで巻き込んで、一緒に南区を盛り上げてもらいたい。
- ・ 昨今では、一般論としてエリア型(自治会活動等)は衰退傾向で、テーマ型(NPO等)の活動は盛り上がっている。今後、エリア型とテーマ型の活動がどのように協働していくかがポイントである。
- ・ まわりの人を巻き込むことが重要だと思う。ぜひ、シンポジウムに参加したことを家族やまわりの人に話をして、徐々に取組を広めていってほしい。

## ( 2 ) これまでの検討状況の整理

事務局から資料に基づき説明を行った。資料とシンポジウムについての主な意見は次のとおり。

### 【主な意見等】

○本日のシンポジウムを聞いて、改めて知らぬ間に行っている協働の取組に気が付く情報発信が大切だということを感じた。

実は知らぬ間に協働に取り組んでいたということがよくあることが分かった。

行政機関は言葉使いが固いため、次期市民協働推進基本計画では柔らかい表現が良い。

本日のシンポジウムについて、参加者の一部から、「市民と市の協働の取組にかかる内容を期待していた」との意見があったため本部会において共有したい。

## 3 その他

特になし。

## 4 閉 会

全ての審議が終了し、閉会した。

以 上

# 相模原市市民協働推進審議会

## 第7回 市民協働推進基本計画策定作業部会 委員名簿

(令和元年5月17日開催)

|   | 氏名    | 現職                          | 備考  | 出欠 |
|---|-------|-----------------------------|-----|----|
| 1 | 和泉 広恵 | 日本女子大学 人間社会学部准教授            | 部会長 | 出席 |
| 2 | 市川 雄士 | 公益社団法人 相模原青年会議所 副理事長        |     | 出席 |
| 3 | 西本 敬  | 特定非営利活動法人<br>さがみはら市民会議 代表理事 |     | 出席 |
| 4 | 原 裕子  | 相模原市民生委員児童委員協議会 会長          |     | 出席 |
| 5 | 本間 セツ | 相模原商工会議所 女性会会長              |     | 出席 |